

## クリーンセンターごみ処理施設の建て替え（広域化） についての説明会における質疑概要（第3回）

この概要は、平成25年6月28日（金）多摩平交流センターにて開催した説明会における質疑応答・意見についてまとめたものです。

説明会にご参加できない方にも、説明会当日の質疑等の内容をわかりやすくお知らせするために、重複した質問・意見の省略をしていることをご了解ください。

### 1. 広域化全般について

Q：デメリットの検討はされたようだが、収集車の台数増加だけなのか？

A：収集車の台数以外には、排ガスの問題があります。焼却量が増える関係から排ガスが増えますが、排ガス処理設備を付けることでクリアできると考えております。

Q：平成24年4月に2市から共同処理の申し出があり、半年間検討したとのことであるが、申し出時に地域説明会を開いたのか？

A：平成24年4月に小金井市、国分寺市から申し出を受けた後、まず内部で検討し、考え方の方針を決定した後、10月に地域の方に説明しました。

Q：3市共同で作る「ごみゼロ推進市民会議」で、2市のごみ減量の努力を調べることができるのか？「他市に持っていくのだから減量しなくてもいい」と考える人が2市にいないとは限らないのではないのか？

A：現在、小金井市のごみ減量は日本で一番良く、日野市より進んでいます。今後は、説明の中にあつた3市のごみ減量についての市民会議等を組織し、さらにごみの減量を進めます。

Q：広域化のときに、日野市のごみゼロ推進課はどのような役目を担うのか？

A：現状の組織を維持して、現在の政策であるごみゼロを目指していきます。

Q：広域化のときに責任を取る組織はどこになるのか？

A：3市で一部事務組合を作ること考えています。一部事務組合というのは、目的を持った自治体ということです。三多摩地域の一部事務組合でも、施設を設置している市が基本的に責任を持って運営するのが一般的であり、日野市が責任を持って対応していきたいと考えています。

Q：広報4月15日号を見たが、多摩地域におけるごみ処理状況のリストに小金井市が入っていないがどうしてなのか？

A：小金井市は以前、調布市と府中市と一緒に、二枚橋衛生組合で処理をしていました。その後、二枚橋衛生組合は解散し、小金井市は施設の建替えを国分寺市と共同とする予定でしたが、用地が確保できないことから、小金井市はごみ処理を三多摩の各市にお願いしている状況のため、ごみ処理状況のリストに入っていません。

Q：日野市のごみ分別はかなり前から、細かいところまでやって進んでいるが、小金井市、国分寺市も同程度の分別を実施しているのか？

A：小金井市は、他市に処理をお願いしている状況であることから、ごみ減量について努力しており、日野市よりも資源化、ごみ減量がすすんでいます。国分寺市は、平成25年6月から有料化を開始しました。一人あたりのごみ量は、日野市に比べてまだ多いですが、今後、同程度にごみ減量化を進めていくということです。

Q：広域化のメリットの中にバイオ燃料化とあるが、これを推進するためには、原材料を安定的に確保しないといけないと思うが、その見込みはどのようにたてられているのか？

A：日野市では生ごみを畑に直接入れるという施策も行っていますが、今後、3市で生ごみ等を資源化するバイオガス化施設を建設していきたいという構想があります。

Q：災害がれき受け入れの時には、反対運動があつたらしいが、馬場前市長が受け入れを決定した。今後、同様のケースの場合、大坪市長が一人で決めるのか？3市の合議で決めるのか？

A：災害がれき受け入れについては、地元の皆様が受け入れを良しとしたと確認しています。今回の建替えの問題については、日野市長が決めて、2市の市長と条件について話し合うこととなります。また新施設については、3市で話し合うこととなりますが、3市のごみ減量市民会議等で、具体的な話をしながら取り決めをしていきたいと考えています。

Q：住民投票を今回の問題で使うことはできないのか？

A：住民投票は今のところ考えていません。数字で決着がつけられる問題かということと、投票率の問題があります。小平市の住民投票は50%に満たないので開票しなかったのですが、50%に満たなくても多い、少ないがあり、それをどう読むか、数字での決着は非常に難しいです。また、住民投票自体には法的に拘束力が無いため、その結果を見て自治体が判断することになり、それは難しい問題です。住民投票による可否は一つの手段ではありますが、考えていません。

Q：進め方がおかしい。市から一方的な説明である。地元で反対している住民の気持ちを広報に掲載して論議して皆で考えなければならない。勝手に進めないと言いながら、広報や今日の資料では広域化を進めると書かれている。

A：市として、広域化にメリットがあると考えており、市は進める立場であるという意味合いで広報に載せました。但し、最終的にどうするかについては、このような形で皆様の意見を聞きながら、進めていきたいと考えており、一方的ではありません。

Q：小金井市と国分寺市は日野市と地続きではないのに、なぜ日野市と広域処理をするのか？

A：基本的な考え方としては、三多摩でどう助け合うかということであり、隣接しているかが大きな問題ではありません。小金井市は苦勞して各市に可燃ごみの処理をお願いしている状況で、それに対してどうするかということです。

Q：説明会をする前に市で検討して市議会へ出し、市議会で説明会開催の了承を得て、住民に説明をするのではないのか？市議会との話し合いはどのようになっているのか？

A：色々な予算について、市議会での議決、承認が必要です。今はその手前の段階で説明会を開いており、これから進めるということであれば、市議会で議決をしていただきます。建設費用は予算であり、市議会の議決無しではできません。小金井市、国分寺市でも日野市にお金を出すので議決が必要であり、これからの話になります。

Q：小金井市が困った状況であるとの話があったが、なぜこのような状況になったのか？

A：小金井市は国分寺市と共同で処理をする計画があり、小金井市が用地を確保するという条件になっていました。1年間かけて、市民検討委員会で多くの候補地を出し、最終的に選ばれた候補地はジャノメシン跡地と二枚橋衛生組合跡地となったが、結果として二枚橋衛生組合跡地に決定しました。住民に説明をして、一部の方の反対はありましたが、小金井市として建設を考えていました。その用地は3市で持っていたため、他の2市の部分を小金井市が買収等の検討をしていましたが、他の2市が断り、その場所での建設は駄目になりました。ジャノメシン跡地については、市庁舎が無いということで、市庁舎用地として確定しているので難しいということでもあります。

Q：地元の自治会であるが、全世帯の98%が反対であるという要望書を提出した。自治会の区域内にごみ処理施設、下水処理場、動物愛護センター、し尿処理場が集まっている。地元の反対で作ることができなかった小金井市のごみをなぜ受け入れなければならないのかということが反対している一番の理由。日野市民のための焼却施設であれば私たち住民は良いと言っている。

A：本日の説明の最初と最後で申しましたが、市内のごみ処理が安全で、衛生的に処理されているのは、地元の方の色々な理解があつてのことです。本日集まっていたいただいた方々にも理解をいただきたいというのが市の立場で、できるだけ地元の方にも負担をかけずに進めたいというのが市の考えです。地元の自治会から98%の方の反対署名をいただきましたが、市から説明をしていない状況で受け取った署名であり、昨年暮れから戸別に地元の方々のところに回り、説明をさせていただきました。その中で、市として、地元の感触をつかませていただき、その結果、このように進めております。

## 2. 費用関係について

Q：維持管理費についてはどうなるのか？小金井市は、現在、緊急事態であることからお金を出すと言っているが、5～10年後の気が緩んだ時に本当に出してくれるのか。

A：共同化を進めるとなると契約行為が成立します。それは議会で、運営についての規約を承認、議決をいただいた後、一部事務組合が成立するので、維持管理費の未払いということはありません。

Q：単独処理の建設費82億円の根拠は？メーカーヒアリングというが、そのメーカーは何社で

あったのか？どこの会社であったのか？その内訳はどうなっているのか？

A：メーカーは3社ですが、今後の契約等もある関係から、名前は明かさないとします。現在出している費用は、市が4年前に作った計画に基づく試算で比較をしており、今後の基本設計でしっかりとした事業費を見積もることになります。

Q：修繕費が年間2億円かかっているとのことであるが、その内訳は？

A：情報公開請求で出されており、対応中です。広報4月15日号に、維持費の総額については載せております。内訳については別の機会に説明をしたいと考えております。

Q：資料にある新施設の自主規制値の実現性について、これができる根拠はあるのか？すでにある焼却施設での数値など、現実的なものがあれば、この数値の信頼性が高くなる。

A：新施設は、基本的に東京二十三区清掃一部事務組合の焼却施設の基準を引用しています。その基準を基本として設定し、例えばばいじんの0.005gというのは、23区の基準は0.01gだったと思いますが、実際測った数値が全て0.005g以下という状況です。窒素酸化物はかなり厳しい基準ですが、排ガス処理設備を二重に付ける形をとればこの数値は十分に可能であると考えます。ダイオキシン類に関しては、現在の数値でも十分に低いことから、この値は実現可能であり、信頼できるものです。

Q：現施設は25年で老朽化したと言うが、新施設の寿命は同じように25年なのか？

A：以前の施設は耐用年数が20～25年と言われていましたが、現在では30年位は何とかなると思います。現施設も26年経過しており、平成31年の新施設稼働まで、あと5～6年は稼働を考えており、新施設も30年位は最低でも動かしていきたいと考えております。

Q：最新設備でも寿命は変わらないということか？

A：機械物であることから、途中で補修を定期的に行えば30年程度と考えております。

### 3. 環境影響について

Q：多摩平は施設から距離があるが、むしろ遠くの方が拡散したばいじん等が降ると経験的にわかっている。そのようなデータをこれからどのように調査するのか？

A：最近稼働したふじみ衛生組合という調布市、三鷹市の施設があり、そのシミュレーション結果に基づいて出したデータを資料に載せています。このデータによると、施設から500m～1kmが着地地点の濃度が高くなるということです。多摩平では、ゼロということはありませんが、この値よりは低くなるのではと予想しております。今後、環境アセスメントを行う中で、調査、評価をしていきたいと考えています。

Q：廃熱利用を考えるととのことであるが、具体的な構想があるなら教えて欲しい。

A：ごみ焼却による発電施設を設置し、売電することを考えていますが、それ以外にも余熱を利用し、温水を使った還元施設等について、地域から要望が出ています。地域でも意見がまとまっていない状況であり、今後、意見を聞きながらそのような施設も考えていきます。

Q：平成 20 年度の単独処理計画では、煙突の高さは 100m が望ましいとあるが、どのように考えているのか？

A：単独処理での建設計画では、煙突の高さは 100m が望ましいとしていましたが、昨年 10 月以降、地元の方々と話をして、景観上の問題もあり、59m で考えておりました。59m というのは、航空法の関係です。さらに説明を続けておりましたら、拡散効果は 100m の方が高いので、100m が良いという意見も出てきました。したがって、煙突の高さは今後の基本設計で、決定していきたいと思えます。

#### 4. その他

Q：説明会が数回あるが、1 回で良いので、手話の方、小さい子供を預かってもらえる会をお願いしたい。市長は丁寧な説明会を開くと話していたが、日野市には耳の聞こえない方もいるので、そのような説明会を開いていただきたい。

A：貴重な意見だと受け止めます。手話の方、保育の関係、配慮が足りなかったと考えます。この説明会については急遽設定した経緯もありますが、貴重な意見として、今後説明していく中では取り入れていきたいと考えます。

Q：最後に近隣住民の意見を聞くと思うが、その方々がミニコミ誌を発行している。どこかに置いてもらうことはできないか。

A：現在、日野市は市民活動について地域協働課で積極的な支援をしており、地域協働課に NPO を含めた支援センターがあるので、連絡していただきたいと思えます。